鶴ヶ島市附属機関会議録

【開催概要】

会議名	令和7年度第1回鶴ヶ島第一小学校学校運営協議会
日時	令和7年5月14日（水曜日） 9時20分～10時00分（授業参観） 10時10分～11時30分（協議会）
場所	鶴ヶ島第一小学校 校長室
出席委員	熊谷茂会長、内野和江委員、串田功委員、奥隅侑子委員、西尾佑貴委員、古賀慎哉委員、池野孝委員、坪山玲緒奈委員、福本利文委員、荒幡光宏委員（鶴ヶ島第一小学校長）
欠席委員	三上光江委員、町田尚司委員、竹島康史委員
事務局	浅見里沙学校事務
議題	(1) 授業参観を踏まえた学校経営等に関する意見交換 (2) 鶴ヶ島第一小学校グランドデザインの説明 (3) 令和7年度の学校経営方針等について（承認の可否あり）
配布資料	資料1 令和7年度 第1回学校運営協議会次第 資料2 鶴ヶ島市コミュニティ・スクールについて 資料3 令和7年度 鶴ヶ島第一小学校グランドデザイン 資料4 令和7年度 鶴ヶ島第一小学校経営方針 資料5 第2回学校運営協議会開催通知
公開・非公開	公開
傍聴人数	0人
会議要旨	1、鶴ヶ島第一小学校グランドデザインの説明 2、令和7年度の学校経営方針等について

【議事概要】

議題(1) 全国学力テストの結果（6年生）について

<会長>

はじめに授業参観について、意見・感想を一言ずつお願いします。

<委員>

クラスによって先生の色が出ている。整頓できていたり、できていなかったりしている。きっちり授業を受けているクラスと、楽しそうにワイワイしているクラスがある。年度始まったばかりなので、1年後どうなっていくのか楽しみである。

<委員>

整理・整頓・清潔・清掃・しつけ、5Sと言われているものを、私は会社に入ってから徹底的に勉強した。小学校のうちからそういうことをできるのは素晴らしい。

<委員>

今年は今年のカラーが出ている。学年が上がるにつれて集中力が高まることを感じた。掲示物を見ると違う側面を知ることができて良かった。1年後どう成長を見れるのか楽しみである。

<委員>

入学式にも参列しその子供たちは今どうかなと思って来たが、4月5月を乗り越えてきた姿が見てとれた。昨年度も言っていたが掲示物は楽しみの一つです。若い先生が大勢いるので、子供たちにどんな関わり方をしていくのか、先生方の成長も楽しみである。

<委員>

毎年子供たちの成長をみることができて幸せを感じる。地域の安心安全に微力ながら協力していければと思う。

<委員>

校長先生が変わると雰囲気も変わる。最初はとまどうがその良さもある。お互い計算しあって学校運営協議会を運営していければと思う。

<委員>

一番に感じたのは学校生活楽しそうで羨ましいなと思った。微力ながら委員を頑張っていきたい。

<委員>

子供も学校好きで学校が楽しいと言って通っている。

<委員>

6年生の社会の授業が、足立区の待機児童をなくすためにはという魅力的なテーマだった。班になって討議していた。前任の吉澤校長が、考えさせることは社会で生き抜く力に繋がると、これをまさに体現していると感じた。授業風景を見ることができるのは良かった。

議題(2)(3) 鶴ヶ島第一小学校グランドデザイン、令和7年度の学校経営方針等について(承認の可否あり)の説明

<校長>

一人一人が輝くために私たち自身も笑顔をふりまき、それを受けた子供たちも笑顔になり、どちらとも良い関係を築いていきたい。副題に追記した温かい心と心をつなぐとは、子供を中心に置き、学校・家庭・地域の皆が一体となり、温かい心と心をつなぎ、未来ある子供たちを育てていきたいと考える。単に自分が頑張るのではなく、人との繋がりを大事にしていきたい。キーワードは、「笑顔」で輝くためには協同していく想いを持ち、その現状を当たり前せず、感謝を持つことである。子供たちは勉強できることに感謝を持ち、教職員はここで働かせていただけることに感謝をし、また両者は地域・保護者に協力いただいていることに感謝をする。感謝をすることが大事だと考える。

以下は経営方針を説明する。

【目指す教師像】

児童が楽しいと思えるような授業展開をしていくべきで、例えばクラスが騒がしくなった時に「静かにして」ではなく、魅力的な仕掛けが出てくれば児童は自然に夢中になる。そういう先生になっていただきたいと先生方に指導をした。

【目指す家庭像】

学校と家庭が同一歩調であるように周知していく。家庭でも子供の頑張りを褒めてほしい。子供の夢を応援できることや、マナーや社会性を培う家庭を目指す。次に、健康づくりを家庭でも推進してほしい。鶴ヶ島市は「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」の文化を継承している。

【本校の課題】

学びに対し繰り返す姿勢が必要である。そのためには授業の中で、魅力的な仕掛けが大切である。それが起因となり、必然的に家庭学習の意欲が湧くと考える。

【学校経営方針】

例えば廊下を走ってはいけませんと、何度も注意をするが、「必ずあなたたちはできる」と教職員は児童を信じる力を持つことが大事である。未来ある子供たちを愛情いっぱいに育む力が必要と考える。

【具体的な取り組み】

(1) 確かな学力と自立する力の育成

- ・鶴ヶ島市は学び合いの学習を継承している。本市の学び合い学習は10年ほど重点的にやっているが、全県・全国の質問紙の数値は高い。今年度の課題は、そのことが基礎学力に結びついているかどうかの検証である。まずは家庭学習の習慣化に結び付けていきたい。さらに、一人一人の伸びを育成するには、分かる・できる・楽しい授業を展開することだ。

(2) 豊かな心と健やかな体の育成

- ・着任して鶴一小の子は素直な子が多いと印象を受けたが、その反面ストレートな子が多い。相手の気持ちを想像できる子を育むためには、道徳教育の充実をすること。その取り組みの一環として、5月には鶴ヶ島市顧問弁護士の渡邊弁護士を招聘し、いじめは絶対だめという授業を行っていただく。
- ・愛校心の醸成には指導の工夫も大事だ。将来も鶴ヶ島市に住み続けたいと思えるためには、学校がどれだけ発信できるかが価値と思っている。
- ・挨拶は種まきだと思う。機会的ではなく、温かい心と心がつながる挨拶を子供たちに伝えていきたい。

(3) 活気と潤いのある教育環境の整備

- ・潤いと活気のある掲示教育を推進していきたい。
- ・本年度は防災教育の推進を強く行っていきたい。先日行われた小中合同引き渡し訓練は大きな混乱はなく進んだ。保護者の皆様にも理解を得ながら防災意識を高めていきたい。
- ・地域とともにある学校づくりは松井教育長も強く謳っている。学校運営協議会では教育活動などの情報を発信し、魅力的な学校づくりに取り組んでいきたい。
- ・令和9年度から鶴中は学校再編だが、小中連携あるいは小小の連携を図り、小1問題や中1ギャップを解消していきたい。
- ・今は働き方改革の推進が求められている。効率的で効果的な教育活動を推進していきたい。
- ・教職員の計画年休10日取得を目指す。職員同士で取りやすいよう推進していく。

<会長>

今の話を聞いて意見・感想を一言ずつ。

<委員>

PDCAサイクルはやったらやりっぱなしではよくない。問題点を把握し改善策を示し、繰り返していくことが重要。ここに荒幡校長が強く示す【魅力】をミックスしたら荒幡校長らしさが出るのではないか。

<委員>

学校再編では、子供が進学するので合併した先の学校はどのような学校なのか、学校間で連携し透明化してほしい。どのような学校なのかを知れたら保護者はいいなと思う。

<校長>

現状中学校間では連携しているが、今後小学校も参画していく仕掛けを考えている。

<委員>

ノー残業デイが一番のピースだと思う。先生方のモチベーションを上げて質の高い教育をしてほしい。朝の7時20分に先生方がいたので大変だなと思った。

<委員>

グランドデザインを聞き、今からわくわくしている。安心して任せられる学校だと思った。校長先生の笑顔が浸透し、児童は喜びに満ち溢れているようにみてとれた。基礎的な整理整頓など一つ一つの積み重ねを家庭と協同することが大切だと思う。これからますます良くなっていくことを期待している。先生方が多くの項目で研究され指導することは楽しみな一方、健康面には留意してほしい。

<委員>

例に廊下歩行の話があったが子供を信じる力はまさにその通りだと思った。手を変え品を変え、先生方の個性を活かした指導をしてほしい。

<委員>

質問ではないが、先日行われた初めての小中合同引き渡し訓練について聞きたい。これまでの避難訓練は学童が受取人だったが、今回は学童が引き取りに行けず、ガラッと変わった方式だった。数名の保護者から何で？という声が学童にも寄せられたが、学校から受けた説明をするしかなかった。何で学童が迎えに行ってはいけないのか、学校側の周知が足りていなかったように感じた。参観の感想は、時代は変わっているが、先生方の（運動会などの行事等で魅せる）熱血さは、今の時代でも子供同士の会話でありふれている。子供たちが楽しいから話題にする、そんな学校づくりができていけば、不登校児童の減少や学校がつまらないと感じる子を減らせていけるのではないかと感じた。

<校長>

私も引き渡し訓練は周知がうまくいっていなかったことを受け止めている。忌憚のない意見を聞かせて頂くのがこの場の価値と感じている。

<委員>

社会人になり企業風土を変えなきゃいけない問題に直面した。整理・整頓・清潔・清掃・しつけ。その基盤が徹底されると、次に設備をきれいにするところに目を向けることができる。すると問題点が見つかり故障する前に改善することができる。よって生産がストップしない。ひいては従業員の働き方の向上にも繋がった。ずいぶん問題意見を言ってもらえてやって良かったと思う。今まさに第一小でもやろうとしている。力仕事で大変かもしれないが、他人事ではなく一緒に変革に携わっていきたい。

<委員>

以前新任の先生が担任だった。子供は先生のことは大好きだが、どうしても先輩の先生方とは教え方に差が出てしまう。先生によってだいぶカラーが違う。先生の色にクラスが染まって全体で楽しく過ごせれば良いと感じている。しかし、なるべく学習面に差が出ないように配慮していただきたい。

<校長>

先生方は成長していることを実感する・管理職は実感させてあげることが大事である。4年以上は交流授業といって教科担任制ではないけれども、いろんな先生方が関わってくる。担任の先生がクラスの子供たちを見るのではなく全職員で見る。これによって中1ギャップも解消できると考える。この学校にいて良かったなと思えるよう実現していきたい。

<委員>

一小はどこからでも入りやすい学校だと思う。先般の不審者の侵入もそうだが安全面を危惧している。

<校長>

先日、本校でも不審者の目撃情報があったので臨時の職員集会を行い、先生方に細かく指示伝達をした。物理的な対策として、校門を閉め、短時間のスパンで教職員が見回りを行い複数の人の目で予防線を張っている。さらに教職員にはホイッスルを持つように呼びかけた。

<委員>

挨拶は他校に比べると良くないと感じる。スクールガードをやっている所以子供には常に接しているのが現状が良く分かる。低学年は素直だが、高学年はほとんど無視をする。挨拶の大事さを理解してくれていないと感じる。挨拶はコミュニケーションの始めだと考える。挨拶を交わすことで機嫌が悪いなど気持ちを汲み取ることができる。歴代の校長に挨拶は大事と言っている。

<校長>

挨拶を交わすことを実現させたい。どうやって実現させていくのか。「挨拶してくれてありがとう」と言う。そうするとまた同じように挨拶してくれる。1年後、良くなったと言ってもらえるように頑張る。

<委員>

以前携わっていた少年野球では、子供から挨拶がないので大人が先に挨拶をしていた。6年生になるとできてくるが、次入ってくる1年生は挨拶のできない子供が多い。挨拶をしてくれないということは、自分に信用がないと考える。野球で色々なことを教える→褒める→試合に生きてくる→信頼の繰り返し。今までの経験上、先生方もその繰り返しじゃないのかと考える。

<委員>

挨拶と防犯侵入者対策の件は相反することである。会長で提議していただいたので、遠慮なく保護者・地域と協同して行ってほしいとこの場を借りてお願いをする。

<委員>

「ありがとう」や「ごちそうさま」等の挨拶には感謝の心を持つことが大事。学校・家庭・地域を通してやっていけば、いずれは往復で挨拶できるのではないかと思った。